

平成29年度日南市立飢肥中学校学校関係者評価書

4段階評価

4 期待以上

3 ほぼ期待どおり

2 やや期待を下回る

1 改善を要する

評価項目	評価指標	方策・手立て	学校の自己評価コメント	自己評価		学 園 指 標	校 評 価	結果の考察・分析(○) 及 び 改 善 策 等(☆)
				指 別	総 合			
(1)知 基礎・基 本の徹底 と学力の 向上 目指す生 徒像 「自ら学 ぶ生徒」	1 学力向上	・4つの学びを意識した授業を行う。 ・定着・習熟を重視した学習指導を行う。	○校内研究で4つの学びを指導案に取り入れることができた。 ●教科毎の定着・習熟の基準をつくり統一すると指導を行いやすい。	3	3	3	3	授業の理解度のアンケートから、教科平均92.1%と昨年に比べて伸びている。今後も定着・習熟を重視した学習指導に努めてほしい。 授業の中で個に応じた指導の充実では、一斉的な授業ではなくグループでの話し合いや個々の考えの発表、考え理解させる時間の確保も大切ではないか。 地域・高齢者のふれあい交流や職場体験学習では、飢肥中生として自信をもって活動している姿が素晴らしい。 基本的な学習習慣の姿勢・発表力等については、落ち着いて授業に取り組んでいるが、もう少し積極的な発表があると良い。(発問の工夫も必要では?) 家庭学習の充実での宿題等の未定出者が、前年より増えている。家庭環境にも原因があると思うが、課題の必要性を理解させ、最後まで見届ける指導を継続することが、基礎・基本の定着期、自ら学ぶ生徒につながるのではないか。 小中合同のPTA行事について、体育的行事は行っているが学習関係も一緒に行ってはどうか。小中9年間を見通した活動ができると思う。 中高連絡会の開催をしたらどうか。説明会は年間2回あるが、もっと接続を考えて行っは。
	2 学習指導方法の工夫改善と個に応じた指導の充実	・授業研究会を充実させ、教師の授業力向上を図る。 ・生徒の実態をもとに基礎学力定着のための授業改善計画を立て、表現力の育成を重視した授業づくりに努める。	○一人1回公開授業を行うことで、授業力向上につながった。 ●研究授業は全員行えたが、その後の授業研究会を行う時間の確保が課題 ○多くの教師から学ぶ機会が多くあり、良かった。 ○全員で取り組んでいこうとする雰囲気が見られた。	3				
	3 地域の特色を生かした教育活動の推進と充実	・稲作体験や高齢者とのふれあい活動で飢肥の特色を知る。 ・職場体験学習で地域の特色を体験すると共にキャリア教育の推進を図る。	●高齢者とのふれあい活動はできたが、雨のため稲作体験ができなかった。 ●体験学習のみならず、中学校3年間を見通して計画的に行っていきたい。 ○総合的な学習の時間を利用して各学年工夫して取り組むことができた。 ●全学年を見通したキャリア教育の充実が課題である。	3				
	4 基本的な学習習慣の確立(姿勢、発表力等)	・授業約束5を活用し、授業中の姿勢について正しくさせる。 ・校内研究と関連して、表現力の育成に努める。	○学習委員会の活動により意識付けさせられた。 ●表現力はさらに伸ばしていきたい。 ○委員会活動で学習態度徹底週間などで意識を高めることができた。 ○1年生はうるさいほど発表をしたがり、2年生は特定の生徒のみ発表	3				
	5 家庭学習の充実(課題の見届け、指導)	・課題一覧表を作成し、課題を生徒に分かりやすいようにする。 ・見届けは教師が行い、最後まで提出させて確認する。	○長期休みの課題など最後まで提出させるよう指導されていた。 ●見届けまで行おうとするが、繰り返し指導しても宿題の提出ができない生徒がいる。 ●最後まで見届けができていたがその後の指導まで充実していない。	3				
(2)徳 積極的な 生徒指導 の推進 目指す生 徒像 「心豊か な生徒」	1 規範意識の高揚と挨拶等の礼儀指導の充実	・礼法指導を充実させる。また、部活動を中心にした「朝のあいさつ運動」を推進する。 ・生徒にしっかりと目的意識をもたせ、委員会活動や清掃指導の充実を図る。	○生徒会や野球部、バスケット部などで実施できていた。 ○伝統的に学期が進むにつれて身につけている。 ○それぞれの委員会をよく取り組んでいる。 ○部活動単位で清掃ボランティア、挨拶運動など活発に活動できた。	3	3	4	4	規範意識の高揚と挨拶・礼儀の充実については、生徒、保護者、地域のアンケート結果でも94%を越えていて、生徒自身の意識の高揚がうかがえる。 生徒による主体的な生徒会活動、委員会活動を様々な行事の中で、自信と誇りをもって活動している姿が見られる。 部活動時間が制限される中で、地域のボランティアに参加したり、地域住民の物品返却時(テント・シート)の手伝いを率先してやってくれた。 スポーツや文化面の部活動の様子が新聞等に掲載されており、部活動の充実がうかがえる。 飢肥に新規出店したIT会社が、飢肥に会社の設立を決めたのは、子どもたちの挨拶が素晴らしかったからだと言っていた。 福岡県の旅行代理店の方が、飢肥駅沿線で手を振る児童生徒がいることは素晴らしいと言った。
	2 生徒会活動の活性化	・自主的な生徒会活動となるように各委員会組織の指導を丁寧に行う。 ・生徒会を主体とした活動となるように指導する。	○11月に新役員に移行したが、どの執行部員も積極的に活動に取り組んでいる。 ●部によっては基本的生活習慣が身につけておらず、朝の活動が続かない	3				
	3 部活動の活性化と充実	・練習時間の確保と指導者の指導する場面を徹底する。	○限られた中で努力していると思う。 ○顧問、生徒ともに熱心に活動できた。	3				
	4 安全教育の充実と健康・食育の充実	・避難訓練の実施や経路の確認をする。 ・自力登校を行い、食べるものに関心をもち将来への健康な体をつくる。	○避難経路の確認ができた。 ○食育ワンプointなどを通して関心をもちさせた。 ●消火訓練等の具体的な活動ができなかった。 ●自力登校という点で一部の生徒は送り迎えが多かった。	3				
(3)体 キャリア 教育の充 実を目指 す生徒像 「たくま しい生徒」	1 個性を生かす進路指導の充実	・進路の情報を整理し、ニーズに応じて適切な情報を提供する。	●進学や進路に関する最新の情報が欲しい。 ○各学年で計画的に行っている。	3	3	3	3	高校体験学習「寺子屋にちなん」(数学・英語)教科担任の中高連携等の充実を図ることで、いろいろな情報を生徒に提供できるのではないか。 進路指導については、職場体験学習や立志式は将来の夢等において考えるよい機会になると思う。職場体験学習では、事業所を一人2か所ぐらい体験できると良いのではないか。 生徒のニーズに応じた進路、進学情報の提供や進路コーナーの充実をもっと図ってほしい。
	2 主体的に進路選択できる能力の育成	・職場体験学習等の機会を増やし、自ら学ぶ経験を多くさせる。	○職場体験学習を実践することができた。 ○総合的な学習の時間を計画的に年間を通して行っている。	3				
	3 将来にわたって自己実現を図ることの出来る能力や態度の育成	・自己の長所や短所を知り、適切に振り返ることで将来の自己実現を図る。 ・予測することを経験させることで将来設計の能力を伸ばす。	○立志式、職場体験学習がとても良い機会となっている。 ○教育相談週を毎学期に設定し、進路指導や生徒指導等の生徒との共通認識を図り指導に役立てる場を設定している。 ○進路コーナーを充実させ、高校の情報等を提供している。	3				
(4) 特別支援 教育の充 実	1 知的障がいや情緒障がいの特性や行動を理解した個別の指導計画作成	・職員研修等で正しい知識を理解し、個別の指導計画を作成する。 ・特別支援コーディネーターを中心としたサポートを全職員で行う。	●個別対応の方法などもう少し研修の機会があると良い。 ●特別支援学級在籍生徒の個別指導計画を早期に完成させる必要がある。 ○毎月、生徒指導連絡会の中で特別支援教育について情報提供や共通理解を図るための会を開いている。	3	3	3	3	特別支援教育の充実については、十分に図られていると考える。全職員の共通理解のもと、さらなる指導の充実を図ってほしい。 情緒学級の指導に関しては、2年生の国語、数学、英語において授業者以外にもう一人指導者を置いて、マンツーマンの形で授業を行っている。そうすることにより、集中力の続かない生徒に対して的確な指導ができていていると考える。
	2 個々の将来を見通した社会的自立への支援	・一人一人の個性を理解し、全職員で共通理解を図る場を設定して情報の共有化を図る。	○毎月、生徒指導連絡会を開き共通理解する場を設定することができた。 ○R対応という設定を行い、授業に複数で対応することで一人一人に応じた指導ができていた。	3				
	3 校内協力体制等の確立	・特別支援コーディネーターを中心として全職員体制のサポートチームを編成して取り組む。	○校内で協力して取り組むことができた。 ●通常学級で支援が必要な生徒のサポートの充実を図る必要がある。	3				
	4 専門教育機関との連携	・教育委員会、児童相談所、こども課、通級教室等との連携を密にする。	○生徒指導等、管理職を中心に連携できていた。 ○子ども課、児相、くろしお支援教室等と連携を図ることができた。	3				

次年度の方針性についての校長所見

全体的な取組として職員の共通理解を図りながら実践してきたことで、生徒一人一人の変容が見られたのではないかと考える。今年度、指摘された課題に対して、真摯に分析を行い、理想とする生徒像をかかげ、明確な解決の方法手段を模索しながら生徒の指導に当たっていききたい。今年度の反省すべき点をしっかりと全員で共有し、次年度の礎として常に心に刻んでいきたいと考える。